

「世界文学における混成的表現形式の研究」

研究グループ：

研究代表者：	土屋勝彦	(名古屋市立大学人間文化研究科教授)
研究分担者：	田中敬子	(名古屋市立大学人間文化研究科教授)
	沼野充義	(東京大学人文社会系研究科教授)
	西 成彦	(立命館大学先端総合学術研究科教授)
	管 啓次郎	(明治大学理工学研究科教授)
	谷口幸代	(名古屋市立大学人間文化研究科准教授)
	山本明代	(名古屋市立大学人間文化研究科准教授)

研究目的：

世界文学の現況を考えると、その一翼を担っているのがポストコロニアリズムの文学や移民文学ないし亡命文学であり、それを体現するエキリチュールとしてクレオール的な混成文化的表現様式を認めることができる。これはグローバル化とローカル化の両極を揺れ動く現代において、複数文化の衝突と融合の帰結として生まれてきた二〇世紀以降の文学的潮流と呼応している。

本研究は、そうした混成と融合によって独自の文学様式を生み出してきた各国の移民文学や亡命文学を中心として、その融合的ないしは相互反響する表現形式の特質とその現代的意義を解明しようとするものである。すなわち、混成的なエキリチュールの特質の考察、そうした表現形式を生み出した時代背景と文化社会的意味の解明、その将来的方向と現代文学における可能性の究明、「移民文学」の新たな意義と定義付けの試行、ポストコロニアルな文学現象に関する文学理論の再構築という5つの課題の解明である。

今年度の計画：

各メンバーは引き続き研究課題の究明に向けて国内外の学会などで発表し、鋭意研究を進める。共同の国際シンポジウムを2009年11月7,8日に開催する。招待作家は、日独語作家多和田葉子氏、トルコ系ドイツ語作家エツダマー氏、ロシア系ドイツ語作家カミーナー氏、ロシア系ユダヤ人ドイツ語作家ヴェルトリップ氏の4名であり、発表者は立教大学准教授の浜崎桂子氏、東京大学非常勤講師グレチュコ氏、広島大学教授フェダマイアー氏などの予定である。

今回は通訳をつけて日本人参加者にも積極的な参加を依頼し、2日間にわたって世界文学における表現の問題にも視野を広げつつ、ドイツ語圏における広範囲な移民・亡命文学の諸問題を集中的に討議し、報告書をCDまたは冊子としてまとめたい。また2008年3月に提出した科研費B「越境する文学の総合的研究」成果報告書をもとに、学術振興会研究成果公開促進費の交付を受けて水声社より『越境する文学』を出版する予定である。